

対象機器：太陽光発電システム構成機器（太陽電池セル・モジュール、ケーブル、パワーコンディショナ、接続箱、開閉器、ヒューズ、バックシート等の樹脂材料、トラッカー）

■背景及び課題

- ・太陽光発電システムの大量導入を背景に、安全性・信頼性に対する議論が活発化している。
- ・バンクビリティを計るための発電量評価基準及びこれを利用する認証の整備が進んでいる。

■活動方針

1. 科学的根拠に基づく規格化を推進する。
2. 国際規格開発に日本意見を反映させる。

■成果

1. 日本発のパワーコンディショナのEMC規格のFDISが回付された。
2. PCSの試験に用いるDC及びAC電源の仕様を決めるTSのNPが承認された。
3. PCSの発電量評価方法として、日照が大きく変化する場合の動的評価方法のTSを提案した。

■今後の予定

1. 実験データの収集と規格素案の策定（集光型PVの風圧耐力・火災試験法など）
2. PVシステム発電量評価規格の検討・整備
3. PVシステムの部品・設置の信頼性向上に向けた品質管理スキームの構築